

CL 寓話

不満だらけの人

—絶版「自分を生かす行動革命」から—

David K. Reynolds, Ph.D.

ある火曜日の朝、とある田舎の診療所で、次のような会話が聞こえてきました。それは間のある長いやりとりでしたが、話も終わりになる頃…。

「今まで真剣に私を心配してくれる人なんていなかったんです」

「エド、いい服着ているね、自分で選んだの？」

「いいえ、妻が買ってくれました。先生、私が話したいことは…」

「何年くらい、学校に行ったの？」

「中退したかったのですが、母がそうさせなかったのです」

「今朝は何を食べましたか、エド？」

「コーヒーだけです、自分で用意しました。妻が朝起きるのを嫌がるんです。彼女が羽根布団よりももっと私を愛してくれたら…」

「昨夜は家で寝ましたか？」

「もちろんですよ、なぜですか」

「エド、今朝ここまで安全に来られてよかったね」

「エッ？」

「水の中にいて喉が乾いた」

「なんですって？」

「水の中にいて喉が乾いた、と言ったんだよ」

「先生、してもらったことに感謝しなければいけないってことですか？」

「そうじゃないよ、エド、でも水があることに気づくことは大事だよ」

「わかりました、わかりました。でもとっても不安なんです。先生、おわかりでしょうけれども、農業なんてギャンブルのようなもんです。借金には追われるし、大気を破壊すると言われるし、干ばつは襲ってくるし…」

「誰も水の上を歩くことはできないよ、エド、泳がなくなっちゃ」

「よくわかります、先生。でも時々、えらく泳ぎたくないんですよね」

「ぼくだってそうだよ」

「おぼれないようにするのに犬かきが一番ていう時もありますよね」

「そう、そう、エド」

「先生のおっしゃることがわかりました。ありがとうございます。お時間を割いていただき感謝します」

「来てくれてありがとう、エド。結局のところ、みんな同じ水に生かされているのさ」



不満だらけの人は、不満のない空想の世界ばかり見て、周りの現実を見落としています。不満の裏にはよりよく生きたい欲求が隠れています。欲求を知り、欲求が行動に移せることかどうか、まず知ることが大切です。コントロールできることを行動に移し、コントロールできないことは受け入れるしかありません。

[目次へ戻る](#)